

科目名		授業形態	担当教員名	
日常生活活動学		講義・実習	堂脇 ゆかり	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（3 単位）		30 回	2 年次	通年
授業の目的・概要				
リハビリテーション医学の中でADLは大きな領域をしめる。リハビリテーションスタッフの一員である理学療法士として、活動の視点から障害を捉えていく。前期ではADL総論として概念、障害との関連、評価法、身の回り動作などについて学習する。後期では、各論として各疾患別のADLの特徴、評価、指導について学習する。				
授業の到達目標				
1. ADLの概念を理解する。 2. ICFを習熟する。 3. ADL評価の意義・項目・方法を理解し実施できるようになる。 4. 車いす、各種杖についての知識を深め臨床において実践できるようになる。 5. 各疾患のADLの特徴を知り、指導法を身につける。				
授業計画				
回	内容			
1	ADL概念と定義	16	小テスト 動作観察について	
2	ADLの歴史的展開、ADLとQOL	17	小テスト 基本動作	
3	ICF① 構造	18	小テスト 基本動作	
4	ICF② 特徴	19	片麻痺のADL① 特徴	
5	ADL評価① 目的・意義	20	片麻痺のADL② 指導	
6	ADL評価② 種類	21	片麻痺のADL③ 実習	
7	代表的な評価法① B.I. FIM	22	片麻痺のADL④ 実習	
8	代表的な評価法② FIM	23	RAのADL① 特徴	
9	身の回り動作 ① 食事・整容・更衣	24	RAのADL② 指導	
10	身の回り動作 ② 入浴・トイレ	25	脊髄損傷のADL① 特徴	
11	杖① 種類	26	脊髄損傷のADL② 指導	
12	杖② 実習	27	脊髄損傷のADL③ 実技	
13	車いす① 種類	28	その他の疾患のADL① 特徴	
14	車いす② 実習	29	その他の疾患のADL② 指導	
15	車いす③ 実習	30	まとめ	
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	後期範囲		
レポート				
小テスト	50%	前期講義範囲		
平常点				
その他		実技テストを行い後期試験に加味する		
自由記載	小テストの合計と定期試験の平均60点以下を学年末に再試験とする			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第2版	細田多穂 監修		南江堂	
実践リハビリテーションシリーズ脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)	千野直一 他編著		金原出版	
自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第2版	奈良勲 監修		医学書院	
自由記載				
備考				